

平成27年新年賀詞交換会

1月15日、市中央生涯学習センターで新年賀詞交換会が開催され、238人の市民が牛久市のさらなる飛躍、発展を祈りました。

ここでは、主催者代表の池辺勝幸市長のあいさつを紹介します。

市長あいさつ(要旨)

◇少子超高齢社会に入って

皆さん、明けましておめでとございます。平成27年の年も明け、それぞれ皆さまも新年を迎えて今年のおさまざまな志、抱負をお考え、また願ったところであろうと思っております。今年、牛久市政を預かって

いる者として、去年から今年の流れを見ておりまして、牛久市とすれば非常に厳しい時代であることは想定してありますが、何とか時代の流れ

に追いついてきたかなという感じもしています。

この10年来、国においても一般的な政治の場合、特に行政の場合におきましては、少子超高齢社会、いわゆる人口減少に入ってくる、そして、子ども数が減ってくる、ということをおの20年近く前から警告をされているわけがあります。

その具体的な現象が去年、様々なかたちで人口減少社会、また限界集落や、全国ベースで約1800の自治体がある中で、相当数の自治体が消滅するという、衝撃的な見通しが発表されました。急な少子超高齢化と同時に人口減少でとんでもない状況になるということが、マスコミなどでも騒がれたわけがあります。

しかし、この状況がもう許されない、財政的にも引き延ばしでは制度も地域社会もこのままでは5年、10年の間には維持できなくなるということがはつきりとしてしまっているわけでありまして、もう先延ばしができる状況に入っています。

そういう中であって、牛久市としての生きる道、それを12年間、私は

市長という立場になって模索をしてきたというのが実態であります。

◇11年の中の構造改善

市民の皆さんには資料などで毎回お伝えしていますが、この11年の中で、牛久市の運営コストが、人件費は約42、43億円で横ばいでありまして、職員の人数は減らしたのではなくて逆に増やしましたが、トータルとして42億円前後で抑えております。

何が変わったかというところ、市役所の運営、縦割りを横割りにし連携させる、そしてばらばらに事業を行っているものをそれぞれ事業ごとに集約化させる、同じ仕事は同じ部署でやる、というようなことをやってきました。

そういう中で、もっと大きい構造改善は、人件費以外一般管理費であります。10年はかかりましたけれども、61億円分の一般管理費のうち、25年度決算では31億円と、半分近くまで下がりました。10年間で毎年繰り返し、予算の組み立て、また予算の執行の過程で改善をしてまいりました。そのことによつて、単年度の赤字、過去の累積の赤字の穴埋めをやりながら、含み損で約80億円からある資産の毀損を、今現在60億円を超える純資産まで資産の面で改善してまいりました。

運転資金等においては非常に厳しい

状況があります。しかし、先ほど申し上げたように、運転資金、投資的経費さえない11年前の状況から、今は60億円近い投資ができるまでになりました。

それは、自前で捻出した30億円程の経費と、そして全ての投資について、補助金を対象とした事業にすることを徹底してきたことによつて、11年前に18億円しかなかった補助金がプラス30億円の48億円になったわけがあります。

借金は一時的に、ひたち野うしく小学校建設がありましたので増えましたが、実質的には借り換えをして徐々に減らしながら、必要な投資を行い、その投資は借金を増やしてではなく、内部の整理をして、そして職員の働き方を変えてやってきたわけがあります。

◇地域間競争・自治体間競争

牛久市では早くから、保育園、幼稚園、児童クラブそして学校そのものの充実、施設面だけでなく各教育現場での教員、正規の教員ばかりでなくスクールアシスタントという方たちで、様々な特技を持った方を先生として授業を支えて頂く、そういうことをしてまいりました。

その結果として、14歳以下の人口がこの6、7年で増えてまいりました。

地域間競争、自治体間競争という



ことが言われていますが、まさしくこの10年間で地域間競争であり、自治体間競争でした。その結果として、自然減だけでなく社会減も含めて、人口減少となる自治体はつきりしてきたのがここ3年です。牛久市には若い人の人口が集まりつつあります。これが今の県南地区のつくばエクスプレス沿線を除いた、旧稲敷郡の動きです。これをするために牛久市は10年間頑張ってきたのです。

税金は、平成19年の120億円をピークにして下がってきています。これを何とか止めたいと、企業誘致もしてまいりました。この5年間で400億円を超える企業の投資がありました。そして、行政サービス水準を上げてまいりました。日経新聞の調査によると、行政サービス水準は茨城県で一番です。ただ、北関東においては、市町村レベルで8番目という状況です。牛久市の行政サービス水準はそこまでになってきました。

◇「ワークシェアリング」という考え方

牛久市役所は困っている人たちに職を与え、まともに働けば最低限の生活はできる、そういう環境を提供するために、「ワークシェアリング」という考え方で、市役所の非常勤職員の待遇を良くしながら、大幅に増やしてまいりました。時給800円から900円に、そ

して月給制に、そして去年の9月から、議員の皆様の了解を得て3段階で、200万円から240万円の非常勤、その上の主任クラスになる人は300万円を超える年収が得られる非常勤、そしてもう一つは年収350万円を超える非常勤となり、社会保険も全部かけています。

そういう非常勤一般職員を牛久市に着実に導入してまいりました。ですから、職員は増やしながらも、人件費は増えなかったというのはそこにあります。

そして、牛久市役所の職員が変わったのは、そこにいる正職員の大勢の方が変わりましたが、それだけではありません。今正職員は350人です。今の非常勤一般職員は8時間勤務になおして約340人です。絶対人数からすれば、600人を超え700人近くになります。そういう一般市民の方から、子育てが終わって就職したい女の方を中心に採用してきました。そういう方々が入って牛久市役所が変わった部分というのは相当あります。

部課長の幹部職員については私が直接変えさせました。しかし、それ以外の職員を変えたのは、部課長の指導と、もう一つの隠れた大きい影響は、非常勤一般職員の方々の働きであります。牛久市役所を変えて、「牛久市役所の職員は変わったね」

「牛久市役所はいいね」と言われている元はそこにあります。そして、正職員が本気になって仕事をやるようになってきたのです。

私が12年前に申し上げた「牛久市役所は牛久市民の役に立つ所」になってまいりました。そして、時代の変化の中で少子超高齢社会に合わせるべく、財政的な困難を乗り越え、財源を捻出し、そしてその対応をしてまいりました。

◇市街化区域の再整備

そして、今、牛久でやるつもりしていることは何か。既存の牛久駅を中心とした市街化区域の再整備であります。それを、雨水の治水から始まって調整池をつくり、牛久沼に流れる水の受け皿をつくり、小野川に流れる調整池をつくり、今インフラを整備してようやく、みどり野地区から東みどり野地区というように少しずつ、開発行為をしても調整池などの建築指導のない住宅地に改善しつつあります。

そして、今、もう一つ手を付けているのが、西側の市街化区域です。下町、上町、本町、田宮、猪子、一厚西、一厚東、この地域のインフラ整備に手をつけています。そして、この旧市街地にも新たに牛久の周りの市町村から若い人たちが移り住んで来られる受け皿をつくり、そして、芸術・文化も農業もどのようにして

いったらいいのか、これから皆さんとも良く話し合いをしながら整備を進める段階に入ってきています。

◇子や孫にとって希望の持てるまち

皆さんとともに、牛久のまちが常磐線沿線の中で、今後ともただ残るのではなく、若い世代に夢を持たせ、そして若い者が集まり、そして年老者を尊敬し守る、そのような地域社会にしていきたいと考えております。

ぜひとも、今日ここにお集まりの皆さん、子や孫にとっても希望の持てる牛久市になるようにご理解とご協力を、今後ともお願い申し上げます。私の新年明けての、市民の皆さんに対するあいさつに代えたいと思います。よろしくお願ひいたします。

